

認証評価における責任者の役割について ～方針の明確化と教職員の関与～

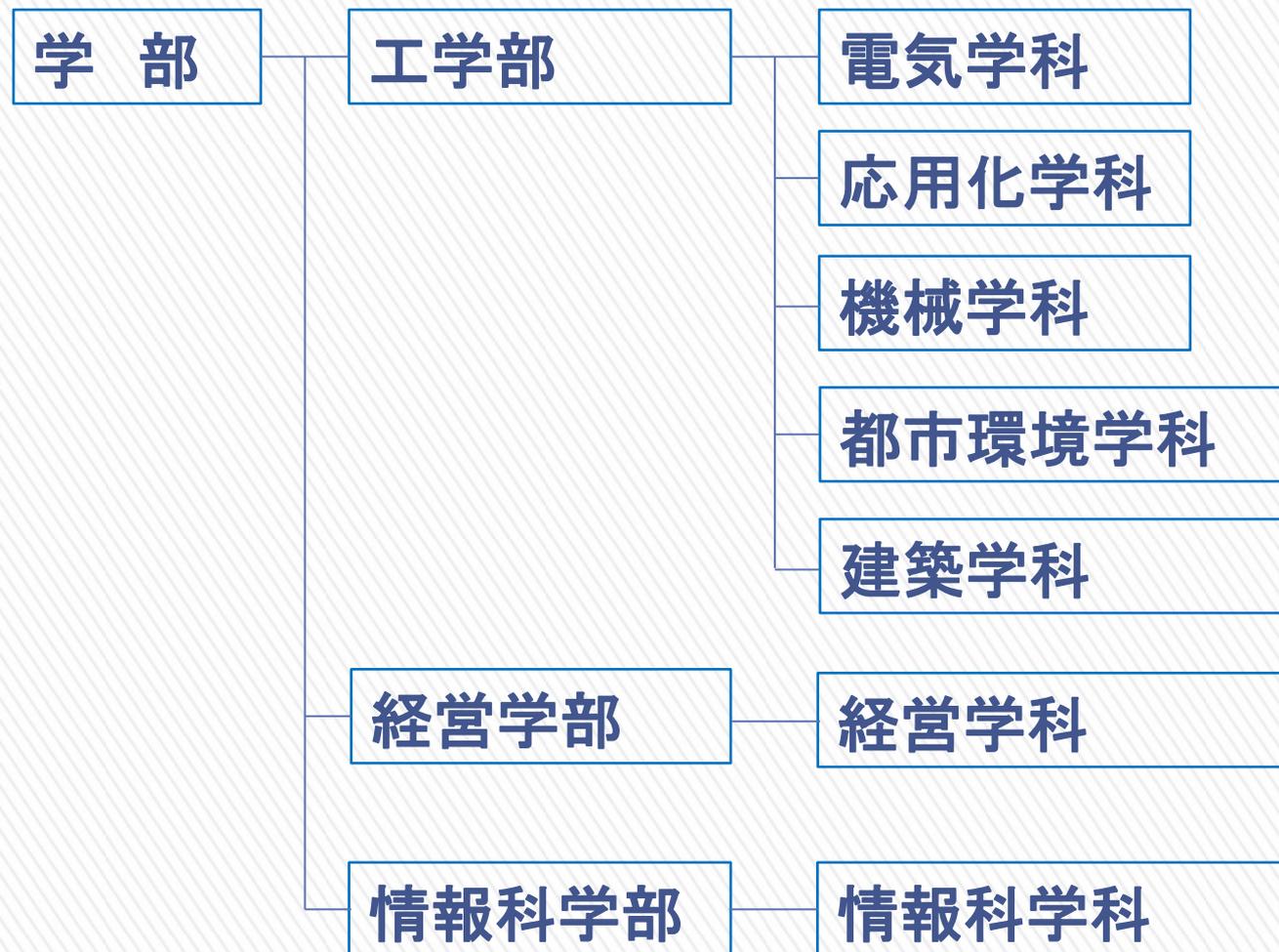
平成 26 年 9 月 9 日
平成27年度認証評価 大学・短期大学 責任者説明会

愛知工業大学 学長 後藤 泰之

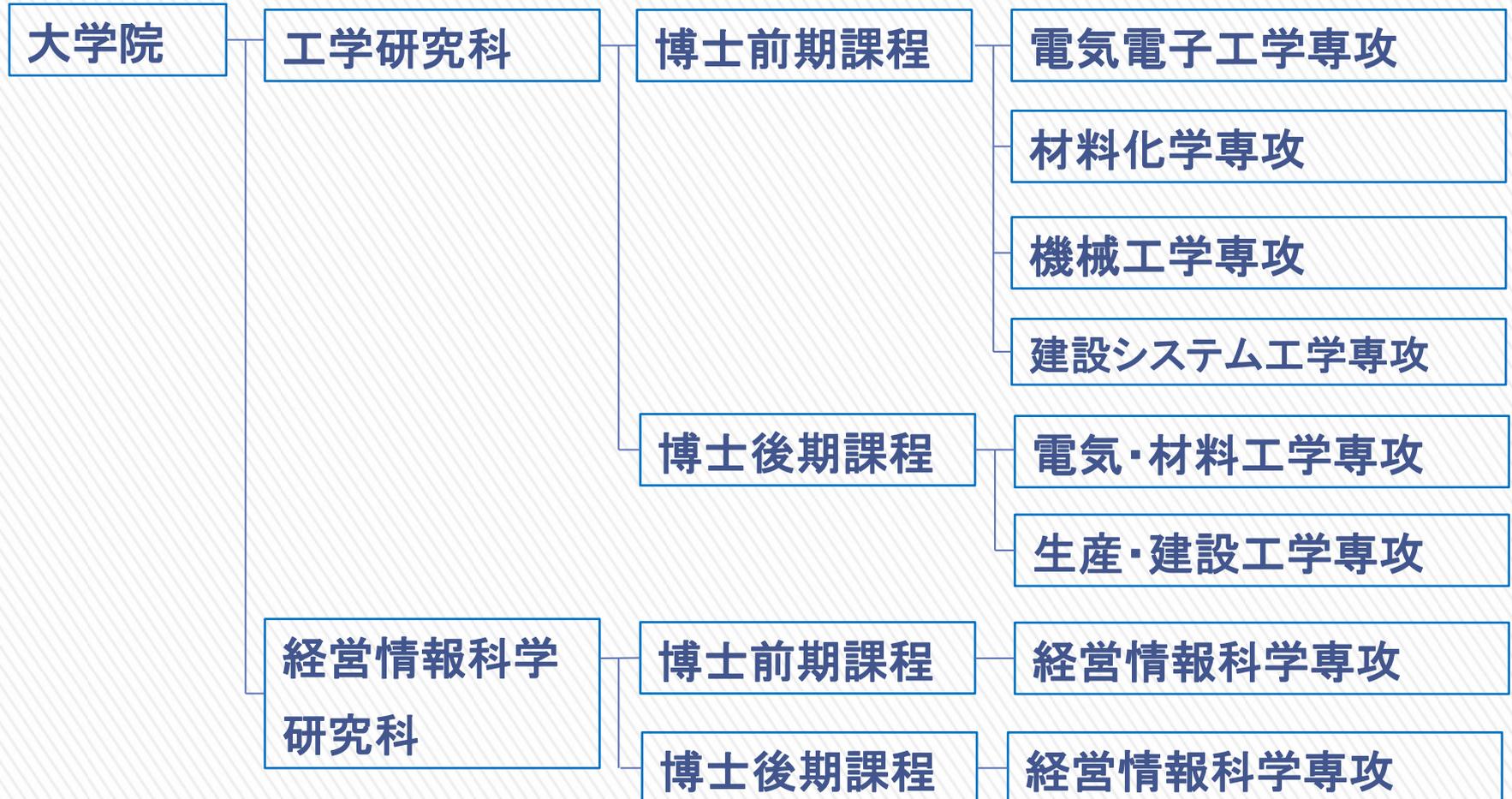
本日の説明

- 愛知工業大学の自己点検・評価と認証評価の取組の経緯
- 取組における問題点
- 改善への取組
- 認証評価の受審に向けて
- 今後の計画
- 活用事例と方針の実践

愛知工業大学 学部・大学院



愛知工業大学 学部・大学院



愛知工業大学沿革

昭和34年 開学(中部地方初の工科系単科大学)

昭和41年 大学院工学研究科修士課程設置

平成4年 大学院工学研究科博士課程設置

平成12年 経営情報科学部設置(工学部経営学科改組)

平成16年 工学部8学科を4学科に再編

平成17年 大学院経営情報科学研究科博士前期課程・博士後期課程設置

平成17年 本山キャンパス設置(名古屋市)

平成21年 経営学部・情報科学部設置(経営情報科学部改組)

平成22年 自由ヶ丘キャンパス設置(名古屋市)

愛知工業大学における 自己点検・評価の取組の経緯

平成 3 年 自己点検・評価委員会発足

平成 8 年 「愛知工業大学における教育・研究の歩み」発行

平成 14 年 財団法人大学基準協会「相互評価」

平成 17 年 自己点検・評価委員会の抜本的再編

平成 19 年 財団法人日本高等教育評価機構「大学機関別認証評価」

平成 22 年 自己点検・評価実施

平成 24 年 自己点検・評価基準改正

平成 25 年 公益財団法人日本高等教育評価機構「大学機関別認証評価」

平成 26 年 自己点検・評価実施中

認証評価と自己点検・評価 から感じた問題点

- 情報共有不足
- 自己点検・評価と認証評価の認識不足
- 一部の教員による点検・評価の実施
- 職員の受動的な立場
- 評価結果の反映のばらつき
 - 役割が不明確、自己点検・評価の重要性の認識不足

改善に向けて・・・ 責任者の成すべきこと

- 方針・取組の明確化と発信
- 年度ごとの目標の設定
- 全学的な組織作り
- 教職員協働による取組
- 教員と職員の役割の明確化

方針・取組の明確化と発信 年度ごとの目標の設定

- 年頭、年度始めのメッセージ
- 学内広報誌
- 学生、保護者用ニュース
- 学内会議
- その他



近年の具体的な取組（全学目標）

- 「ものづくり教育」の実践
 - 学生、教職員協働による映画作り
 - 学生チャレンジプロジェクトの充実
- グローバル人材の育成の充実
 - 中国姉妹校への学生派遣制度
- 大学院生倍增計画の基盤作り
 - 高度技術者、職業人の育成
(企業からの要請)



2014年制作 映画AFO

自己点検・評価の体制の問題点

- 指名された専任教員による自己点検・評価
 - 全学的な関心の低さ
 - 現場の実態の把握不足
 - 評価結果の反映の遅れ



全学的な組織作り

体制の見直し(第一段階)

学部長、研究科長、センター長などを構成員

- ○全学的な取組、各部局における詳細な自己点検・評価
- ×職員意識不足(単なる資料の収集)

体制の見直し(第二段階)

- 事務職員の委員会への参画
 - 教学の取組への自主性の喚起
- 9つのワーキンググループの設置
 - 専任職員の半数以上が参加
 - **事務職員の意識の向上**
 - 恒常的業務のなかでの自己点検・評価
- プロジェクトチームの設置(認証評価時限的チーム)
 - 管理運営・教学・就職などの部門からの若手職員で構成

ワーキンググループ(平成26年度)

- WG1 使命・目的・方針管理、自己点検・評価、
教育研究の社会貢献担当 ……庶務課長
- WG2 教育課程、FD担当 ……教務課長
- WG3 入試担当 ……入試広報課長
- WG4 学生支援担当 ……学生課長
- WG5 就職・進学担当 ……キャリアセンター課長
- WG6 学習環境(研究環境含む)担当 ……管財課長
- WG7 管理組織・運営担当 ……総務課長
- WG8 人事管理、SD担当 ……人事課長
- WG9 財務担当 ……財務課長

※担当課の職員及び関連する部署の職員4、5名で構成

プロジェクトチーム（平成25年度認証評価）

○設置 …… 平成24年11月から平成26年3月

○チーム構成

チームリーダー …… リエゾンオフィサー（庶務課長）

メンバー …… 教学部門、管理部門から

30代前半から40代前半の中堅職員5名

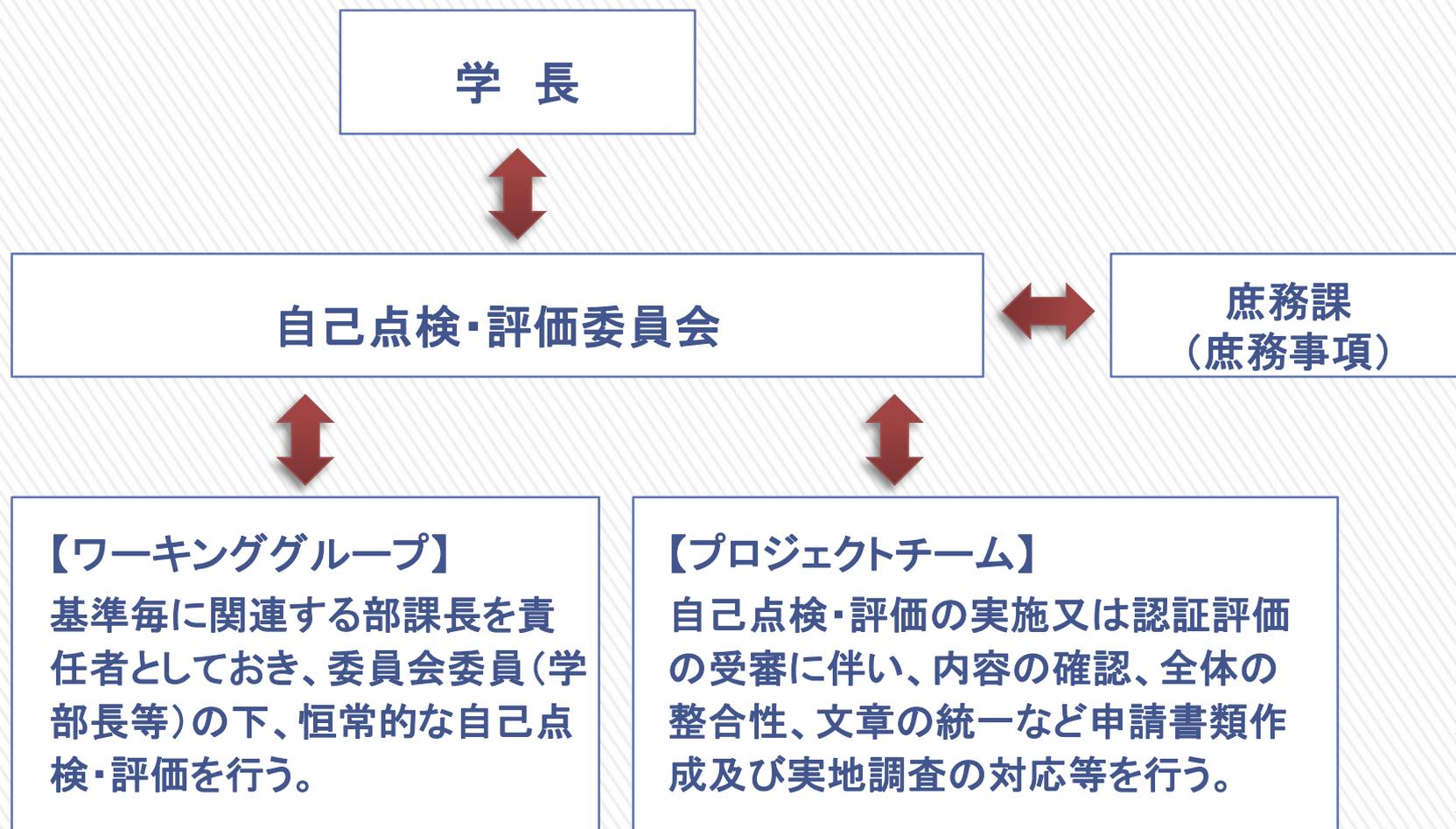
○位置付け

自己点検・評価委員会の下、時限的な組織として設置

○ねらい

- ・ 認証評価受審のための対応
- ・ 若手職員の知識と意識の向上
- ・ 次回以降へのつながり

愛知工業大学自己点検・評価体制概略図



自己点検・評価の基準項目の問題点

- 平成17年度日本高等教育評価機構の基準
 - 本学の自己点検・評価の基準の設定
- 平成19年度大学別認証評価受審
 - 適合
- (2サイクル目)日本高等教育評価機構の基準変更
 - **本学の基準と乖離**
- 本学独自の基準の設定
 - 本学の教育研究組織、管理運営組織に即した基準の設定
- 本学独自の基準項目と評価の視点の設定
 - **業務を通じた自己点検・評価**
 - それぞれの組織で抱える課題を設定

認証評価受審に向けて(その1)

- 平成23年度から準備を開始
- エビデンスに基づく自己評価
 - 根拠資料の整備、集約
 - 表現の統一
 - ワーキンググループの活用
- 平成24年度自己点検評価書の作成
 - 自己点検・評価委員とワーキンググループの連携
 - 事務職員参画による実質的な自己評価

認証評価受審に向けて(その2)

- 平成24年10月 認証評価プロジェクトチーム
 - 自己点検評価書の統一(体裁、字句、表現他)
 - エビデンス(データ編と資料編)との照合
 - 書面質問への回答のとりまとめ
 - 実地調査の準備
 - 調査報告書への対応

→ 若手職員の意識向上

今後の取組

- 平成25年度認証評価結果の検証
- 平成26年度自己点検・評価の実施
- 全教職員が結果を共有
- 中長期計画による改善事項の策定

活用事例

- 各種刊行物の表現の統一化
- 各種規程の制定

- **教育、研究及び社会貢献の新たな取組**

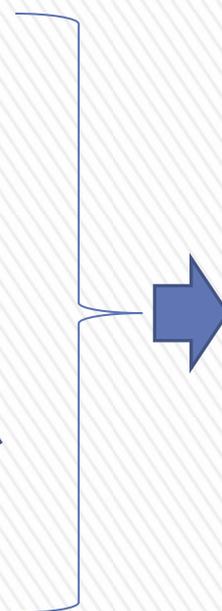
→ 「愛知工業大学教育研究活性化推進プロジェクトの再編」

再編前 基盤整備 → 再編後 常に新たな取組の検討

平成25年度認証評価「優れた点」と評価

愛知工業大学教育研究活性化推進プロジェクト(平成26年度)

- 学士力向上プログラム
- 大学院教育改革プログラム
- 地域協働連携プログラム
- グローバル人材育成プログラム
- 研究力強化プログラム



委員会、体制など既存の体制にかかわらない新しい取組を検討、試行実施(職員も参画)

近年の具体的な取組(方針の実践1)

▶ 教育の柱「ものづくり」の実践1

→ 学生の自主性の喚起、コミュニケーション力の向上

映画「A. F. O」の制作

○ 200名以上の学生が参加

○ 教職員と学生の協働

→ 企画補助、人集め、施設の手配、外部団体との折衝、時間管理、スタッフ間の連携など



継続的な取組(方針の実践2)

➤ 教育の柱「ものづくり」の実践2

→ チャレンジ精神の向上、修得した技術の実践

学生チャレンジプロジェクト

- 学生自身の持つ夢を本プロジェクトで実現(チャレンジ)
 - コンテスト、競技会への参加が原則
- 教員は助言のみ(技術の実践)
- 学年を問わないチームを編成
- 最高100万円までを援助
- 大学祭での成果発表

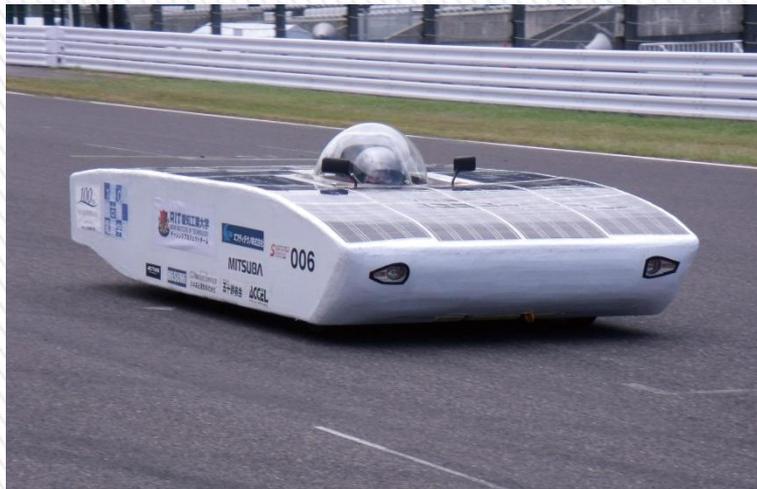
学生チャレンジプロジェクト



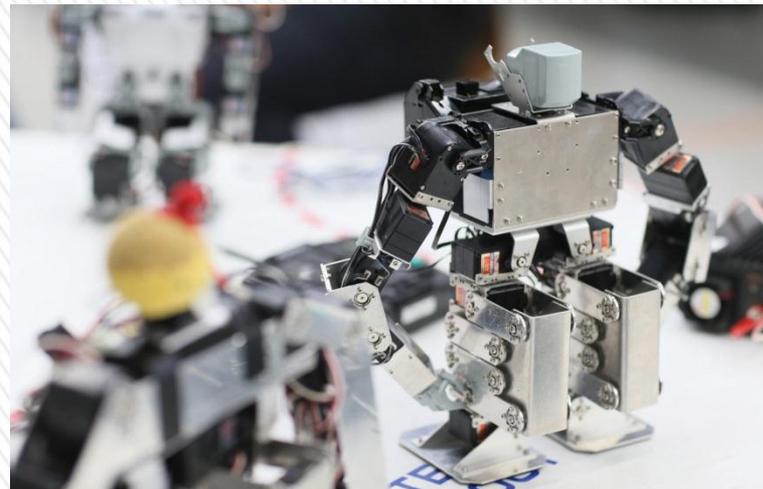
鳥人間コンテストへの出場



設計競技コンペ出展



ソーラーカーレース(鈴鹿2012へ参加)
FIFAオリンピッククラスへの挑戦



歩行型ロボットおよびマイコンの研究

最後に

- 認証評価は、大学改善の手法の一つである。
- 全教職員の意識を向上しなければ、真の自己点検・評価に繋がらない。
- 認証評価のための自己点検・評価ではなく、大学が独自の自己点検・評価を行うことが最も重要である。
- そのための組織体制を整備することも責任者としての責務である。

ご清聴ありがとうございました。